



パブロ・ピカソ「ゲルニカ(タピスリ)」1983年(原画は1937年)第3ヴァージョン タピスリ・ワール、綿 328×680cm 群馬県立近代美術館

PABLO PICASSO "Guernica" (tapisserie interprétée par Jacqueline de la Baume-Durrbach), 1983, 3m28cm × 6m80cm, The Museum of Modern Art, Gunma ©2015-Succession Pablo Picasso-SPDA(JAPAN)

琉球朝日放送開局20周年記念

戦後70年、今ゲルニカで考える。

パブロ・ピカソ

『ゲルニカ』タピスリ 沖縄特別展

Pablo Picasso Guernica(tapestry) Okinawa special exhibition

【場所】沖縄県立博物館・美術館

【時間】9:00~18:00(金・土は20:00まで)

【休館日】毎週月曜日

(月曜が祝日の場合は開館。翌日休館)

【入場料】当日券 大人：900円 高大学生：600円 小中学生：400円
前売券 大人：720円 高大学生：480円 小中学生：320円

※チケットはお近くのファミリーマート、ミュージアムショップゆいむい(前売券のみ)で購入出来ます。
インターネットでの購入はこちらから。 <https://www.funity.jp/qab-20/>

【お問合せ】沖縄県立博物館・美術館 TEL:098-941-8200(代表) パブロ・ピカソ ゲルニカ(タピスリ)沖縄特別展実行委員会事務局 TEL:098-868-7797(平日 10:00~18:00)

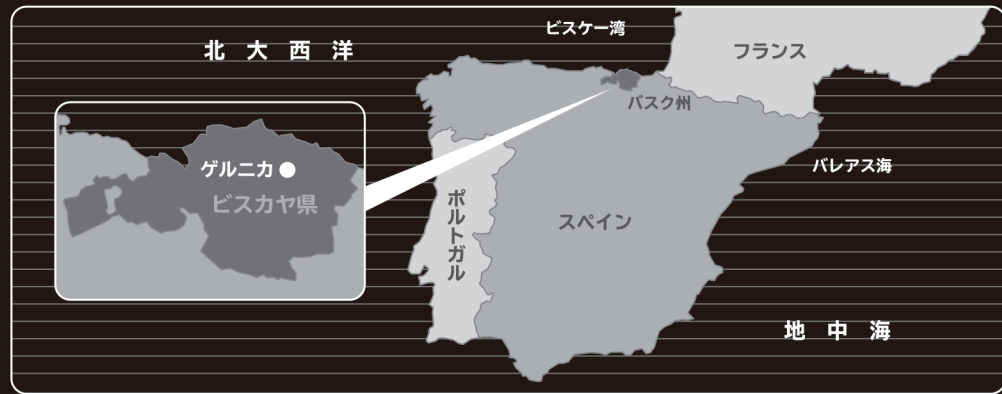
■主催：沖縄県立博物館・美術館 琉球朝日放送(株) (協)沖縄産業計画(パブロ・ピカソ ゲルニカ(タピスリ)沖縄特別展実行委員会) ■特別協力：群馬県立近代美術館

2016.3.19^{sat}
~4.17^{sun}



琉球朝日放送開局20周年記念 『**ゲルニカ**』 戦後70年、今ゲルニカで考える。
パブロ・ピカソ 『**ゲルニカ**』 沖縄特別展
 Pablo Picasso Guernica(tapestry) Okinawa special exhibition

スペインのバスク州にある古い都市(基礎自治体)の地名であり、
 スペインの画家パブロ・ピカソが描いた絵画の題名で知られる「ゲルニカ」。
 今回、沖縄初上陸となる『ゲルニカ(タピスリ)』とは、
 ピカソが描いた『ゲルニカ』を原画とし、
 ピカソの監修・指示にもとづいて伝統的な技法で作られた織物。
 それが『ゲルニカ(タピスリ)』です。
 戦争の悲惨さから喚起する平和への希求、反戦や抵抗のシンボルとして
 20世紀を象徴する極めて貴重な作品です。
 原画とほぼ同寸大の横幅7mにもおよぶ迫力と、
 ピカソの想いを感じながらご鑑賞ください。



profile ■ **パブロ・ピカソ**(1881 - 1973)
 スペイン南部のアンダルシア地方の町マラガに美術教師を父として生まれ、11歳頃には美術学校でデッサンを学び始めます。19歳の時パリに出て、多くの芸術家と交流しながら作品を制作します。貧しい人々を青い色合いで描いた「青の時代」、サーカス芸人を楽しげでどこか悲しげな表情で描いた「バラ色の時代」、複数の視点から捉えた形体を再構築して一つの絵に描く「キュビズム」など様々な方法で絵を描き、20世紀の美術に大きな影響を与えました。

『ゲルニカ』から『ゲルニカ(タピスリ)』へ

世界が第二次大戦へと走りだしていた頃、パリにいたピカソは、祖国スペインで起こっている内乱に危機感を抱き、反乱軍を指揮するフランコを醜悪な怪物として戯画化した版画『フランコの夢と嘘』を制作しました。その後スペインの古都ゲルニカが、フランコを援助するナチス・ドイツ空軍に爆撃される事件を知り、準備中だったパリ万博のスペイン館を飾る壁画として描き上げたのが『ゲルニカ』(国立ソフィア王妃芸術センター、マドリード、スペイン)の絵です。
 大戦後、著しく発展する産業化の中で、芸術の重要性が失われるのを怖れた芸術家たちは、制作に伝統的な職人の技法を取り入れ手仕事の価値を高めようと考えます。ピカソも南仏で見出した陶芸やタピスリに関心をもち、織師のジャクリーヌ・ド・ラ・ポーム＝デュルバック(1929-1990)との出会いを契機として、自らの作品を基にタピスリを作ることに情熱を注ぎました。
 タピスリとはフランス語で「綴織り」で作られた壁掛けのことで、英語ではタペストリーと言い、模様や絵を自由に織り出すことができるため、昔のヨーロッパでは防寒もかねて壁に飾られていましたが、制作が難しいこともあって、次第に作られなくなっていました。20世紀に入ると、このタピスリが芸術価値として優れていると考えた画家たちが自分の作品を織師にたのんでタピスリにするようになりました。そして生まれたタピスリの一つが『ゲルニカ(タピスリ)』です。1955年に織り上がった『ゲルニカ(タピスリ)』(個人蔵、ニューヨーク、国連本部寄託)を見て、ピカソは、色系を変更し縁飾りを加える指示を残します。それに基づき同じ織師によって第2バージョン(ウンターリンデン美術館、コルマール、フランス)が1976年に、そして本展の作品、第3バージョン(群馬県立近代美術館)が1983年に完成されました。

資料提供：群馬県立近代美術館

関連イベント情報

2016年
4月9日(土) 記念講演会
「ピカソ、ゲルニカの意味するもの」 参加 定員
 時間：14:00~15:00 無料 50名
 会場：美術館講座室 群馬県立近代美術館 館長 井出 洋一郎

※席に限りがありますので、希望される方が多数の場合は先着順とさせていただきます。ご了承ください。

特別協賛： 秀 金秀グループ

KAIHO 海邦銀行

KANRYO HOTEL

沖縄県立博物館・美術館

沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL:098-941-8200(代表)

アクセス

- バス 那覇空港発[99番線]おもろまち3丁目バス停留所下車 徒歩5分
 [120番線]上之屋バス停下車 徒歩10分
 - ・市内線[3・7・10番線]県立博物館前バス停下車
 [6番線]那覇メインプレイス東口バス停下車 徒歩5分
 - ・市外線[バイパス経由]おもろまち駅前バス停下車 徒歩10分
 [国道58号経由]上之屋バス停下車 徒歩10分
 [おもろまち行] おもろまち1丁目バス停下車 徒歩3分
- 沖縄都市モノレール「ゆいレール」 おもろまち駅下車 徒歩10分

